

製品安全データシート

作成日：2015年03月30日

改定日：2020年07月01日

1. 化学物質等および会社情報

製 品 名	レミファルト
会 社 名	株式会社 NIPPO
住 所	〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
担 当 部 門	本社・合材部
電 話 番 号	03-3563-6732
FAX 番 号	03-3567-4085
緊急連絡先	03-3563-6732
用 途	道路舗装材料
整 理 番 号	LM-00005

2. 危険有害性の要約

特有の危険有害性 通常は道路舗装材として使用する。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 警告

GHS分類

急性毒性	経口	区分外
	経皮	区分5
	吸入(ガス)	区分外
	吸入(蒸気)	区分外
	吸入(粉塵・ミスト)	区分外
皮膚腐食性および皮膚刺激性		区分外
眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性		区分外
感作性	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性		区分外
発がん性		区分外
生殖毒性		区分外
標的臓器毒性(単回暴露)		区分2 (呼吸器、神経系、腎臓、肝臓)
		区分外 (肺)
		区分3 (麻酔作用、気道刺激性)
標的臓器毒性(反復暴露)		区分2 (呼吸器、神経系、肺)
		区分外 (精巣、肝臓)

吸引性呼吸器有害性	分類対象外
水性環境毒性(急性)	区分外
水性環境毒性(慢性)	区分3 (麻酔作用、気道刺激性)
危険有害性情報	
注意事項	
安全対策	なし
応急措置	なし
保管	該当なし
廃棄	都道府県等の許可を受けた専門業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品混合物の区分	化学物質(混合物)
化学名または一般名	石油アスファルト混合物
別名	常温アスファルト混合物
成分及び含有量	

化学名	含有量(wt%)	官報公示整理番号	CAS. NO
アスファルト	3.0~9.0	9-1720 (化審法) 12-189 (安衛法)	8052-42-4
石油系炭化水素(Kerosine)	1.0~2.5	9-1720 (化審法) 12-140 (安衛法)	8008-20-6
その他石油系炭化水素類	0.4~1.2	企業秘密なので 記載できない	企業秘密なので 記載できない
砕石・砂・その他	92~97	—	—

危険有害成分	特定できない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当
労働安全衛生法	表示対象物(通知対象物) アスファルト(含有量は表を参照)
毒物劇物取締法	対象物ではない

4. 応急措置

眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、炎症等の症状が現れたら、医師の診断、手当てを受ける。 アスファルト分が皮膚に付着しているときは、取り除かないで医師の手当てを受ける。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等でお

	おい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。 呼吸が止まった場合および呼吸が弱い場合は、衣服を緩め、呼吸気道を確保したうえで、人工呼吸を行う。 本製品は、加熱時に硫化水素/一酸化炭素を発生させる場合がある。製造・運搬時および使用時に発生するミスト/煙/蒸気/ヒュームを吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生ずる場合がある。したがって、汚染の可能性がある場所からできるだけ早く移動すると共に、すばやく医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。 嘔吐物は飲み込ませないようにする。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
急性症状および遅発性症状のもっとも重要な徴候症状	本製品は、加熱時に硫化水素/一酸化炭素を発生させる場合がある。 硫化水素は、ばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状をおこす。400～700ppmでは、30分～1時間のばく露で急性死または後死が考えられ、700ppm以上の硫化水素吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起こす。 一酸化炭素は、中毒の目安として、300ppm未満なら影響は少なく、600ppm未満では軽度の作用があり、900ppm未満で中度ないし高度の影響がある。1,000ppm以上になると危篤症状が現れ、1,500ppm以上では生命の危険におよぶ。
緊急措置をする者の保護	現在のところ有用な情報なし。
医師に対する特別な注意事項	現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火方法	噴射水、粉末、炭酸ガス等消火器を火元に放射、散布するなどして消火する。 泡消火剤等を用いて空気を遮断する方法も有効である。 風上から行う。
消火剤	粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂
使っていない消火剤	棒状注水は、水蒸気爆発を起こす恐れがあるので避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業の際には保護具を着用する。
保護具及び緊急措置	屋内での使用時は、換気をよくする。 作業の際には手袋、必要に応じて、保護マスク、ゴーグル等を着用しガス等を吸入しないよう注意する。

環境に対する注意事項	排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込めおよび浄化の方法・機材	危険でなければ漏れをとめる。 漏出物を取り扱うときに用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止	全ての発火源を速やかに取り除く。 漏出時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い	室内で使用する場合は、換気を十分にする。 直接火の中に入れてないこと。 直接水の中に入れてないこと。 長袖作業着・保護手袋を着用すること。 必要に応じて、呼吸用保護具や保護眼鏡を着用すること。 取扱い後は、よく手を洗うこと。
保管	保管ができる製品ではないで、余った製品は廃掃法に基づき処分する。 余った製品は、水まわりや湿気の多い場所に置かないこと。 余った製品は、子供の手の届くところには置かないこと。

8. ばく露防止および保護措置

製品としての有用な情報なし

単一製品として	許容濃度(ばく露限界値、生物学的暴露指標)			
化学名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH	
ストレートアスファルト	ストレートアスファルトとしては勧告値なし 1ppm(硫化水素として)	ストレートアスファルトとしては勧告値なし 5ppm(硫化水素として) 50ppm(一酸化炭素として)	TWA値 0.5mg/m ³ (Asphalt fume) 1ppm(硫化水素として) 25ppm(一酸化炭素として)	STEL値 勧告値なし(Asphalt fume) 5ppm(硫化水素として)
石油系炭化水素(Kerosine)	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
その他石油系炭化水素類	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
碎石・砂・その他	未設定	未設定	未設定	未設定

設備対策	屋内作業で大量に使用するときは、蒸気が滞留しないように、排気装置を設置する。
保護具	状況に応じて呼吸用保護具
保護眼鏡	状況に応じて保護眼鏡
保護手袋	保護手袋
保護衣	長袖作業着
特別な注意事項	有用な情報はなし。

9. 物理的および化学的性質

外観	黒色固体
臭い	データなし
pH	データなし
融点、凝固点	データなし
沸点、初留点と沸点範囲	データなし
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気=1)	データなし
密度	2.30±0.4g/cm ³ (締固め後)
溶解度	データなし
N-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性および反応性

安定性	製品に対する有用な情報なし。
反応性	製品に対する有用な情報なし。
避けるべき条件	有機溶剤との接触。 強酸化剤との接触。 水との接触。
混触危険物質	製品に対する有用な情報なし。
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成する。
その他	製品に対する有用な情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性	本製品に対する有用な情報なし。			
(減圧蒸留残渣油として)	経口	ラット	LD50	5,000mg/kg以上
(減圧蒸留残渣油として)	経皮	ウサギ	LD50	2,000mg/kg以上
(Kerosineとして)	経口	ラット	LD50	>48,000mg/kg
(Kerosineとして)	経口		LD0	5,000mg/kgで死亡が認められなかった。
(Kerosineとして)	経皮	ウサギ	LD0	2,000mg/kgで死亡が認められなかった。
(Kerosineとして)	吸入(粉じん、ミスト)		LD0	5.28mg/Lで死亡が認められなかった。

皮膚腐食／刺激性	<p>本製品に対する有用な情報なし。</p> <p>製造、運搬、舗設作業時(半固体)は、本製品との接触は熱傷の恐れがあるので注意する。</p> <p>ドレイズテストの結果は刺激性なし。</p> <p>ヒトで皮膚への接触により刺激性が認められた。</p> <p>皮膚刺激性 ウサギ 500mg重度の刺激性</p> <p>皮膚刺激(区分2)</p>
(減圧蒸留残渣油として)	
(Kerosineとして)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	<p>本製品に対する有用な情報なし。</p> <p>ドレイズテストの結果、軽度の刺激性あり。</p> <p>アスファルト蒸気/ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものではなかったとの記載がある。</p> <p>溶解されたアスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。</p> <p>眼を刺激しない。ウサギを用いたドレイズtest(GLP試験)で刺激性が認められなかった。</p>
(減圧蒸留残渣油として)	
(ストレートアスファルトとして)	
(ストレートアスファルトとして)	
(Kerosineとして)	
呼吸器感作性または皮膚感時作性	<p>呼吸器感作性について、本製品に対する有用な情報なし。</p> <p>皮膚感時作性について、本製品に対する有用な情報なし。</p> <p>減圧残留残渣油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある。</p> <p>呼吸器感作性: データなし。</p> <p>皮膚感作性: モルモットを用いたBuehler test(GLP試験)で感作性が認められなかった。</p>
(減圧蒸留残渣油として)	
(Kerosineとして)	
生殖細胞変異原性	<p>本製品に対する有用な情報なし。</p> <p>アスファルトヒュームまたは、アスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性/陰性のデータが存在する。しかしながらin vivo体細胞変異原性試験/体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びにin vitro変異原生試験の陽性結果、さらに本物質は変異原性があると記載を総合的に考慮し区分2とした。</p> <p>体細胞を用いる in vivo 変異原性試験であるラット骨髓細胞を用いる染色体異常試験で jet fuel A1について陽性の結果があり、kerosineについては陰性の結果がある。</p> <p>マウス骨髓を用いた小核試験でもdiesel No.1について陰性げっ歯類を用いる優性致死試験でもkerosene及びjet fuelについて陰性の報告がある。</p>
(ストレートアスファルトとして)	
(Kerosineとして)	
発がん性	<p>本製品に対する有用な情報はないが、IARCは、道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間におよぶ「アスファルト・エミッションによる職業ばく露について、「グループ2B」(人に対</p>

	して発がん性の可能性がある)に分類している。なおIARCは「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質および気体、および気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲上になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が1日に4～9時間程度を長期間にわたりさらされること」と想定している。しかし、本製品は常温アスファルト混合物なのでこの限りではない
(ストレートアスファルトとして)	EU CLP規則(1272/2008/EC)付属VI Table 3.2に記載されていない。(有害性として分類されていない)
(Kerosineとして)	IARCはグループ3(ヒト発がん性に分類されない物質)。ACGIHはグループA3(動物発がん性が確認され、ヒトとの関連は不明な物質)に分類している。 発がんのおそれの疑い(区分2)。
生殖性	本製品に対する有用な情報なし。
(Kerosineとして)	妊娠ラットへの投与試験で生殖毒性が認められなかった。ただし、親動物への影響については不明。
特定標的臓器／全身毒性(単回ばく露)	本製品に対する有用な情報なし。
(ストレートアスファルトとして)	黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを3ヵ月毎に200mg皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。 アスファルトヒュームに含まれる硫化水素/一酸化炭素により気道刺激性があることが知られている。
(Kerosineとして)	ヒトばく露例で中枢神経抑制やめまいなどが認められた。ただし、親動物への影響については不明。 呼吸器への刺激のおそれ(区分3) 眠気又はめまいのおそれ(区分3)
特定標的臓器／全身毒性(反復ばく露)	本製品に対する有用な情報なし。
(ストレートアスファルトとして)	常温におけるほぼ固体状態での有害性データは確認できない。アスファルトフュームの吸入試験(マウス、6～7h/日、5日/週で21ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、膿瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。 ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎気管支炎、ヒュームの経皮ばく露では皮膚炎、ざ瘡(にきび)様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験呼吸器に影響がみられているが、ばく露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。 ヒトにおいて呼吸器系に影響がみられていることから区分1

<p>吸引性呼吸器有害性 (ストレートアスファルトとして) (Kerosineとして)</p>	<p>(呼吸器系)とした。 製品に対する有用な情報なし。 動粘度率が8,000mm²/s以上であるので区分外。 ヒトで誤嚥により化学性肺炎をおこす。 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ(区分1)</p>
<p>その他 (ストレートアスファルトとして) (ストレートアスファルトとして) (ストレートアスファルトとして)</p>	<p>本製品は、製造、運搬及び舗設作業時は、通常加熱されているので、皮膚や眼に触れると火傷になる。 高温時に発生するガスを吸入すると嘔吐およびめまいを起こすことがある。 ストレートアスファルト加熱時に硫化水素/一酸化炭素を発生する場合がある。 硫化水素は、ばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400～700ppmでは30分～1時間のばく露で急性死または、後死が考えられ、700ppm以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起こす。</p>

12. 環境影響情報

<p>生体毒性 残留性/分解性 (ストレートアスファルトとして)</p>	<p>本製品に対する有用な情報なし。 本製品に対する有用な情報なし。 石油アスファルトは通常の温度では蒸発しないが、道路舗装や屋根葺きの前に加熱する際、ヒュームを発生する。発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。ヒューム揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、石油アスファルトは分散性に乏しく、浮か沈むかである。土壤中では、移動性はない。 石油アスファルトの水性環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根葺きに利用してきた経験から、石油アスファルトは明らかにいつまでも持続する物質であり、生分解性がないことが特長でもある。</p>
<p>生体蓄積性 (ストレートアスファルトとして)</p>	<p>本製品に対する有用な情報なし。 石油アスファルトの構成成分のlog kowはすべて6以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水生生物の体内に取り込まれることは考えにくい。</p>
<p>土壤中の移動性 (ストレートアスファルトとして)</p>	<p>本製品に対する有用な情報なし。 土壤中では、移動性はない。</p>
<p>オゾン層への有害性</p>	<p>本製品に対する有用な情報なし。</p>

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県等の許認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して廃棄処理を行う。
容器及び梱包	自治体の定めるルールに従い、分別して廃棄を行う。
その他	投棄禁止 その他、関係法令に定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国際規制	国連番号	非該当	
	品名	非該当	
	国連分類	非該当	
	容器等級	非該当	
	海洋汚染物質	非該当	
国内規制	陸上	労働安全衛生法	表記対象物(通知対象物)
	海上	船舶安全法	非危険物
	航空	航空法	非危険物
追加の規制	本製品に対する有用な情報なし。		
輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策	本製品の、ダンプトラック等での輸送時は飛散及び荷崩れしないように、保護シートを装着し、必ず養生をしてから運搬する。 その他、関係法令に定めるところに従う。		

15. 適応法令

消防法	非該当
PRTR法	非該当
労働安全衛生法	表記対象物(通知対象物) : アスファルト
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制

16. その他の情報

参考資料	厚生労働省 職場の安全サイト GHS対応モデルMSDS GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 原材料データシート(SDS) 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2019) 米国産業衛生専門家会議(ACGIH2014) IARC Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans
------	--

安全データシート ストレートアスファルト(ENEOS株式会社2020/06/25)
安全データシート ストレートアスファルト(出光興産(株)2019/07/01)
安全データシート ストレートアスファルト(コスモ石油(株)2018/07/01)
その他

安全データシート(SDS)は、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱事業者に提供されるものです。

本データシートは当該製品の一般的な取り扱いに際しての安全な取り扱い方法について、最新の情報を集めたものですが万全ではありません。新たな情報を入手した場合は追加または訂正することがあります。当該製品を他の製品と混合したり、特殊な条件で使用したりするときは安全性の評価を行って下さい。

なお、本データシートそのものは安全の保障書ではありません。